

開催日時：平成31年2月26日（火）13：00～16：00

開催場所：釧路市観光国際交流センター

第25回釧路湿原自然再生協議会 議事要旨（案）

1. 開会

2. 第9期 釧路湿原自然再生協議会の運営について

1) 第9期 協議会構成員の公募結果報告

事務局から第9期協議会構成員の公募結果について報告し、協議会委員相互で公募結果を確認した。

2) 第9期 会長及び会長代理の選出

委員の互選により会長及び会長代理の選出が行われた。会長として中村太士委員が選任され、会長代理として高橋忠一委員が選任された。

3. 議 事

■議事1：第9期（後期）協議会の収支報告

事務局から第9期（後期）協議会の収支報告を行い、協議会委員相互で収支内容を確認した。

- ・ 質疑は無かった。

■議事2：第24回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告

事務局から第20回及び第21回湿原再生小委員会、第22回旧川復元小委員会、第23回土砂流入小委員会、第18回森林再生小委員会、第16回及び第17回水循環小委員会、第5回及び第6回地域づくり小委員会、第31回及び第32回再生普及小委員会の開催概要について報告した後、内容について協議が行われた。

【湿原再生小委員会について】

- ・ 質疑は無かった。

【旧川復元小委員会について】

- ・ 質疑は無かった。

【土砂流入小委員会について】

■河道安定化対策について

(会長)

- ・ 久著呂川の河道の安定化対策で、生産量の抑制割合が対策箇所では70%あるが、湿原流入部で20%になるのはなぜか。

(事務局)

- ・ 対策は1~2kmの短い区間の河床低下を抑えるもので、湿原流入部では対策区間上流からのものに加え、途中で流入してくるものも多いためこのような割合になる。

(会長)

- ・ 効果は、流域全体となると薄くなるとのことである。

(会長)

- ・ 以前、対策箇所の下流側で河床が低下しているのを見て、これを止めるのは難しいと感じた。対策区間下流に帯工を1基設置する計画なのか。

(事務局)

- ・ まだそこまで計画が具体化していない。一番末端の帯工から400mが河床低下傾向にあるが、河道の拡幅など、工作物を設置せずに対策が取れないか考えているところである。場合によっては、帯工などの構造物を設置することにはなるかもしれない。

(会長)

- ・ 土地管理上、河道を広げられる余裕はあるのか。

(事務局)

- ・ それも含めて調査、検討を進めているところである。

■排水路合流部沈砂池について

(委員)

- ・ 鶴居村にある排水路合流部沈砂池は自然河川が流入しないため、土砂の除去をする頻度は想定より少なくなると思う。
- ・ 我々酪農家は、暗渠管を畑に埋設して排水性を良くして草地にしているが、暗渠管から出てくる水は雨水が地面に浸透して出てくるので、決して土砂が混じ

った汚い水を流しているわけではないことを、みなさんにご理解頂きたい。

【森林再生小委員会について】

■私有地の裸地問題について

(委員)

- ・ 来年度から施行される森林環境譲与税が私有地の裸地からの土砂抑制対策に使えるようになるのではないかと考えている。森林再生小委員会で私有地の裸地へ植林できないか検討してはどうか。

(会長)

- ・ その話は森林再生小委員会でもしており、次年度から始まると聞いている。今までできなかった公的な事に使えるようで、私もそういった問題に活用できるのではないかと考えている。しかし、まだ確かではないところもあり、今年3月に開催される森林学会で森林環境譲与税の仕組みについて聞いてこようと思う。森林ふれあいセンターでは今情報を持っていないか。

(事務局)

- ・ これは、市町村が行う森林整備やその促進等、また、都道府県が市町村へ行う支援等に関する費用に充てなければならないとされているが、現在、これらの内容は把握できていない。

(会長)

- ・ 今後詳細が分かり、お話し頂いたような用途に活用できるなら森林再生小委員会で議論していく。

■雷別地区自然再生事業の効果の評価について

(委員)

- ・ 森林再生の効果について、シラルトロエトロ川の水を通して何か評価できないか。

(会長)

- ・ できるとしたら濁り成分だと思うが、そういったもので評価できないか。

(事務局)

- ・ 現状として水質調査を行っておらず、国有林の他、民有林から出てくるものもあり、評価は行っていない。

(会長)

- ・ 沿いに土砂の供給源があり、そこを止めるのであれば効果が出てくると思うが、現在既にササで覆われ、あまり土砂が発生しない状況になっている。ダイレクトに水質に効いてくるとは考えづらく、面積的にもごくわずかなので、なかなか水質に現れにくいと思う。
- ・ 調査の予定は無いようだが、また可能な限り森林再生の中で検討して頂ければと思う。

【水循環小委員会】

■支川L-Q式と代表L-Q式での推定結果の違いについて

(委員)

- ・ 支川L-Q式と代表L-Q式での栄養塩年間負荷の推定結果比較で、ツルハシナイ川鶴厚内橋で、SS、全窒素、全リンの比率が他の河川より高く、全リンと全窒素は200%を超えているが、どういうことなのか。

(事務局)

- ・ この地点はH30年度からの観測で、他に比べ標本数が少ない。今年は出水の規模が小さく、大きな出水時の高濃度データが取れていないため高くなったと考えている。

■土砂や栄養塩の評価について

(会長)

- ・ P157のグラフは実測値に見えるが、実測値でも負荷量が軽減されているのか。また、SWATを用いた推測値は、実測値を大体再現できているのか。
- ・ 1970年くらいから折れ線グラフの値があるが、過去の値を再現できているのか、まだ検討が必要な状態なのか。

(事務局)

- ・ 釧路川の水質の折れ線グラフは、青が瀬文平橋、茶色が開運橋、黄緑が愛国浄水場取水口、紫が新川橋の実測値で、推定負荷量の棒グラフは、SWATを用いた計算値である。
- ・ P157の測定値は平水時の定期調査のもので、高濃度時に測っていないため高濃度時の評価ができていない。推測値が正しいか、近年の高濃度時のL-Q評価をし、過去に遡って検討していくなど、解析の余地があると考えている。

(会長)

- ・ 全体を俯瞰したときに土砂や栄養塩がどうなっているのかは大事なデータである。各対策の効果が表れているか、他の小委員会ではここまではっきりとした結果は出てこないなので、そのあたりを詰めていってほしい。

【地域づくり小委員会について】

- ・ 質疑は無かった。

【再生普及小委員会について】

- ・ 質疑は無かった。

■全体を通して

(櫻井委員)

- ・ 塘路湖とシラルトロ湖は自然にできた大きな沈砂池だと思う。沈砂池としての効果がある一方、どうしても水深が浅くなってきている。どのくらいの粒径のものが年間どれくらい堆積しているか調べて今後検証してみてもどうか。

(会長)

- ・ 達古武湖とシラルトロ湖では、私の研究室にいる学生がコアサンプルを取り、土砂堆積スピードの調査を既に行っている。だいたい入植後の1860年くらいまで遡れており、樹木が伐採され、土砂が増えていることが分かっている。
- ・ 森林が流入量を抑えていることは事実で、土砂だけなら問題ないが同時に栄養塩が流入し、達古武湖ではヒシで覆われてしまうなどの問題が起こっている。
- ・ 今度機会があれば、どのくらいのスピードでそれぞれの湖が埋まっているかの資料を出す。

—以 上—

第 25 回釧路湿原自然再生協議会における課題と対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針（案）
湿原再生	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 	
旧川復元	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 	
土砂流入	<ul style="list-style-type: none"> ・久著呂川の河床の安定化対策では、対策箇所下流の河床が低下しているが、今後どういった対策がとられるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道の拡幅及び、必要に応じて帯工の設置などを検討していく。
森林再生	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から施行される森林環境譲与税が私有地の裸地からの土砂抑制対策につかえないか検討してほしい。 ・森林再生の効果について、シラルトロエトロ川の水質から評価できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この制度は、市町村が行う森林整備やその促進等、また、都道府県が市町村へ行う支援等に関する費用に充てなければならないとされており、市町村と都道府県が実施内容や支援内容を検討することとなります。 ・シラルトロエトロ川上流に位置する雷別地区自然再生事業地は、笹地で土砂があまり流出しない状況であり、また、小面積であることから、水質への影響は現れにくいと考えています。
水循環	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂や栄養塩が経年的にどうなっているかの評価は重要である。洪水時（高濃度時）も含めた経年評価ができるよう検討を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時の浮遊砂観測を行っており、引き続き観測を行って行きたい。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 	
再生普及	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 	
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・塘路湖とシラルトロ湖は自然の沈砂池のようになっている。溜まってきている土砂の粒径と年間の堆積量を調査してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業主体で塘路湖とシラルトロ湖の粒度調査及び堆砂量調査を実施しているか確認したい。